

令和6年度第1回ワークショップ「TNGR（つながる）」実施結果について

1 ワークショップの目的

ワークショップ「TNGR（つながる）」は、市の将来を担う世代や地域の協働の新たな担い手の視点により、まちづくりに対する課題等を抽出することを目的としている。

2 開催日時

令和6年8月7日（水）午後1時30分から午後4時45分まで

3 開催場所

奥州市水沢地区センター会議室1及び2

4 参加者の状況

(1) ワークショップ参加者

区分	人数
地方創生の推進に関する包括連携協定締結企業、地域循環社会の推進に関する連携協定締結企業	12名
奥州市協働のまちづくりアカデミーの修了生	8名
市職員	5名
計	25名

※ 当日は、参加予定者のうち4名（企業：2名、市職員：2名）が欠席。

(2) 専任アドバイザー

特定非営利活動法人まちサポ雫石 理事長 櫻田 七海 氏

5 当日のプログラム

(1) 開会・オリエンテーション（事業概要、今年度の実施内容等について説明）

(2) 各テーマの奥州市における現状と課題について（講義）

●テーマ①「アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について」

説明者：奥州市政策企画部政策企画課企画推進係長 佐々木 良彦

●テーマ②「若者の地元定着を促進させるための対策について」

説明者：奥州市協働まちづくり部地域づくり推進課長 千葉 康行

(3) 専任アドバイザーによる事例紹介

特定非営利活動法人まちサポ雫石 理事長 櫻田 七海 氏

(4) ワークショップ班分け

テーマ①「アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について」：2班

テーマ②「若者の地元定着を促進させるために必要な体制について」：3班

(5) ワークショップ（現状課題の整理、課題解決の方向性の検討、企画内容の検討）

(6) 専任アドバイザーからの講評

(7) 事務連絡・閉会

6 第1回ワークショップの結果（概要）

1 班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 5名（企業：2、アカデミー：2、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 小野 優（第1期） 若槻 慎也（第10期）
【意見交換概要】 ●現状課題の整理 ・土地が広大で星なども綺麗であり、自然の豊かさが一つの魅力である ・世界的に有名なスポーツ選手である大谷翔平選手の出身地であることも強み ・産婦人科等出産できる施設がない ・市内に若者がやりたいと思える仕事が少ない ・レジャースポットが少なく、店舗の営業時間も短い ・電車等の本数が少なく、交通の便が良いとは言えない ●課題解決の方向性 ・娯楽施設（特に若者が楽しむことのできる施設）の増設 ・交通機関の充実 ・子育て環境の充実（産婦人科の設立や手厚い子育て施策） ・誰でも気軽に農業に参加することができる体制づくりや自然のPR ・大谷翔平選手の出身地であることのPR ●企画内容の検討 ・閉校舎を活用したアニメのイベントの実施 ・閉校活用 アイディアコンテストの開催 ・婚活イベントの実施 ・市内の美味しいものを知ってもらうためのイベント実施 ・eスポーツやサバイバルゲーム専用施設の開設



2班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 6名（企業：3、アカデミー：2、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 司東 隆光（第2期） 菅原 喜文（第6期）
【意見交換概要】 ●市の現状課題 ・大型商業施設等、娯楽施設が乏しい ・市内の高校生以下の年代に地元の働き先が知られていない ・産婦人科や教育施設（大学）がない ・地元に戻って生活が豊かになるイメージが持てない ●課題解決の方向性 ・企業と学生の交流場所が生まれて欲しい ・小学校・中学校のころから地元の企業を知る機会が欲しい ・子どもを産むことができる場所やその後のフォローができる場所がほしい ・奥州市にUターンしてきたらどのような暮らしができるのか、魅力的な部分をPRする ●企画内容の検討 ・地元で働く人によるキャリア教育の実施 ・企業と高校生や中学生が交流できるイベントの実施 ・市内在住者に奥州市での暮らしについてインタビューしたり、市内での暮らしの体験動画を作成したりする



3班：若者の地元定着を促進させるための対策について
【班の構成】 5名（企業：3、アカデミー：1、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 阿部 高志（第7期）
【意見交換概要】 ●市の現状課題 ・市のPR不足、地元のことをよく知らない ・地元企業の認知度が低い ・遊ぶことのできる場所が少ない ・県外へ進学した学生が地元に戻ることなく県外で就職してしまう ・交通が不便で自家用車が必須 ●課題解決の方向性 ・情報発信媒体を用いたPR活動で、市の魅力を知ってもらう ・市内の企業をPRして、若い世代に地元企業をより認知してもらう ●企画内容の検討 ・仕事体験型ワークショップの開催 ・おうしゅうたろうが市の特産品や観光スポットを紹介するYouTubeチャンネルを開設する



4班：アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について
【班の構成】 4名（企業：2、アカデミー：1、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 齋藤 優（第9期）
【意見交換概要】 ●市の現状課題 ・アウトドアアクティビティができる場所までアクセスしづらく、交通手段もわからない ・アウトドアアクティビティの市民の認知不足 ・夏＝海のイメージが強く、内陸（奥州市）でのアウトドアアクティビティの魅力が知られていない ・市内でできるアウトドアアクティビティは一般市民向けではなく競技者向けのイメージが強い ・趣味で行う人はいるが、娯楽の一つとして楽しむ人は少ないのではないかと ・アウトドアアクティビティを始めるのに、どの程度お金がかかるのかわからない（どのような装備が必要なのか、レンタル品の貸出等はあるのか） ●課題解決の方向性 ・アウトドアアクティビティに取り組みやすくなるような環境の整備（交通手段、装備、情報発信） ・体験イベントやブームのきっかけとなるような大会などの開催 ・SNSを利用する世代をターゲットとしたPR活動の展開 ・アウトドア仲間コミュニティがあると良いのではないかと ●企画内容の検討 ・毎月特定日はアウトドアの日として、施設を無料で開放する ・アウトドアアクティビティに費用な道具の市民割引の導入 ・奥州湖周辺エリア限定サイトの開設 ・親子参加型体験イベントやアウトドア名人（プロ選手等）が来るイベントの開催



5班：アウトドアアクティビティの市民への普及と必要な体制について
【班の構成】 4名（企業：2、アカデミー：2、市職員：1）
【ファシリテーター】 協働のまちづくりアカデミー修了生 及川 正行（第4期） 伊藤 早織（第8期）
【意見交換概要】 ●市の現状課題 ・そもそも市内でできるアウトドアアクティビティが認知されていない ・情報発信が乏しく、認知度が低い ・どこに何があるのかわからない、体験できる場所がどこかわからない、始めるためにどこに行けばよいかわからない ・市街地から奥州湖エリアは遠い ・なんとなくハードルが高そうな印象 ●課題解決の方向性 ・SNSで市内アウトドアアクティビティの情報を発信することで、認知度を高める ・手ぶらで来てアウトドアアクティビティを体験できるような環境を整備したい ・わかりやすい料金設定やツアー内容の構築 ・アウトドアアクティビティを定着させるための目玉イベントがあったら良い ●企画内容の検討 ・SNSで#（ハッシュタグ）を使った投稿キャンペーンの実施 ・チーム「TNGR（つながる）」で動画を撮って投稿する ・道具の一式レンタルや市街地からのシャトルバスの手配 ・施設などの初回利用のクーポン発行 ・大谷翔平選手の着ぐるみを作って、胆沢ダムの堤体を走る（PR活動の一環として）



7 専任アドバイザーからの講評

市でも今回のワークショップで議論したテーマについて様々な場面で話し合いを行っているのだと思うが、若い世代のみで話し合いをすることはなかったと思うので、貴重な機会だったのではないかな。

今回のワークショップでは、実現可能性等は特に考えずに自由にアイデアを検討してもらった。

次回以降については、アイデアの具体化を行っていく。例えば、事業は誰が行うのか（行政、企業、それともワークショップ参加者だけでもできるものなのか）や、なぜそのアイデアが必要なのかを考えて欲しい。

8 今後の予定

令和6年8月21日（水）に、第2回ワークショップTNGR（つながる）を開催する。第1回ワークショップで出た意見やアイデアについて、実現可能性や5W1H（なぜ、いつ、どこで、だれが、なにを、どのように取り組みを行うのか）を考慮しながら、全体会での発表に向けて企画書（提言書）の作成を行う。